

クラブに対する不満は 自分に対する不満

京都嵯峨野 村田 信也

ロータリークラブとは、と問いかげられたらなんと答えるでしょうか。「奉仕をする団体」との答えが一番多いでしょう。続けて、どんな奉仕をしていますか? となると「社会奉仕」と答える方も多いでしょうし、古参会員などは「職業奉仕」だとか「超我の奉仕」と答えるのではないのでしょうか。

では、続けてこんな問いかけをされたらどうなるでしょう。「あなたはどんな奉仕活動をしていますか」「あなたはどんなロータリー活動をしていますか」。さてなんと答えるでしょう。

クラブにある不満の声として、「もっと奉仕活動をしたい」「楽しい例会ではないから出席したくない」「ロータリーが面白くない」などがあります。この不満は、退会につながる重大問題です。簡単な解決策はないと思うのですが、誰かが奉仕の企画をするのを待つのではなく、楽しい例会が企画されるのを待つのもなく、

ただ面白いクラブになるのを待っている、不満が募るばかりです。やはり、自らが積極的に奉仕活動を企画して、楽しい例会になるようにプログラムし、面白いロータリー活動にするべく、自らが導くことができなければ、こんな不満は出てこないのでしょうか。

率先してロータリーに取り組んでいる会員がいますが、その人たちからは不満の声は聞こえてきません。つまりクラブに対する不満は、自らの行動に対する不満の表れではないでしょうか。誰かを頼るのではなく、自らが率先して奉仕活動を企画して、積極的にロータリー活動に参加することで、面白いロータリーとなりますし、楽しい例会となるはずです。自らの行動いかに、理想のロータリーができればいいのではないでしょうか。

そのためにも実は、親睦が一番重要だったりします。例会だけでなく委員会に参加して、自ら提案と問題提起をするような取り組み、奉仕活動にも率先して参加をし、同好会などの活動にも企画から加わるなど、あらゆる機会に積極的に参加することが、活力ある明日のクラブ活動へと続くと思っています。

いろいろな不満を感じた時は一歩立ち止まって、自らの行動を顧みることも重要な気がしているのですが、案外難しいのかも知れません。私は常々、次の言葉を思い返すようにしています。

「暗いと不平を言う前に、進んで明かりを灯そう」。この精神こそ重要な気がしますが、いかがでしょうか。